

第四回JCOMM報告

イベント報告

日中の日差しも、すっかり柔らかくなり、秋の気配が次第に濃くなってきました。今号は、先日、大分県別府にて開催された第四回JCOMMの報告を中心にお届けします。



▲ 写真1 会場の様子

去る七月三十一日、八月一日の両日、大分県別府市ビーコンプラザにて、第四回日本モビリティ・マネジメント会議が開催されました。初めての地方都市での開催となる今回も、約二百七十名の方に御参加いただ



JCOMM 通信

日本モビリティマネジメント会議
ニューズレター

Vol.13 ● 2009.9.30

【発行】 JCOMM実行委員会
ニューズレター編集部
【お問合せ】 京都大学 藤井研
筑波大学 都市交通研
mail: jcomm@plan.cv.titech.ac.jp

MMIに関連する会告掲載希望やご意見等、随時受け付けております。

き、口頭発表表十九編、ポスター発表表五十一編と盛況のうちに終了しました。今年梅雨明けが遅く天気心配されましたが、当日は好晴に恵まれました。温泉巡りなど、お楽しみ頂いた方もいらっしやると思いますが、ご参加いただいた皆様、また準備にご協力いただいた事務局の方々に厚くお礼申し上げます。

【会議概要】

会議の前のプライベートでは、開催地である大分県におけるMMの取り組みが紹介され、「地方都市におけるMM」についてパネルディスカッションが行われました。

続くオープニングセッションでは、三編の講演と平成二十一年度JCOMM賞の授賞式が行われました。第一日目のポスターセッションA・B、口頭発表表（地域公共交通の活性化）を終えた後の懇親会では、大分県の郷土料理を食しつつ、様々な意見交換が展開されました。二日目も「職場MM」「健康と



▲ 写真2 ポスター発表の様子

MM「MM組織のマネジメント」「まちの賑わい」に資するMM「MMの多様な可能性」に関する口頭発表セッションに加え、ポスターセッション、ツール展示セッションなど多彩なプログラムで構成され、MMに関する様々な議論が交わされました。発表に用いられた資料は、近日中にJCOMMHPにて公開いたします。是非ご利用ください。

【参加者アンケートから】

参加者アンケート（回答者数：54）によると、例年に引き続き、今年もポスターセッションが、大変高い人気であることが示されました。今年、口頭発表の各セッションについても、ポスター発表と同程度に満足度の高いものでありました。今年の口頭発表セッションは、例年要望の多いテーマに加え、「MM組織のマネジメント」「健康」「まちの賑わい」など新たなテーマも設けられ、持続的な展開に向けた議論ができたことが特徴的であったものと思われれます。

また、興味のあるMMのテーマに関しては、図1のように、職場・組織、居住地に引き続き関心が寄せられる一方、交通まちづくり、転入者などへの高い興味を示されました。自由記述欄では、「地方自治体からの参加者が旅費を確保しやすいような配慮をして欲しい」「市民団体・交通事業者の参加を促すような広報を」などの記載がありました。

▼参加費・発表投稿費について

JCOMMは、本年度より「一般社団法人日本モビリティ・マネジメント会議」が主催するカタチとなり、別府での第四回JCOMMでは、持続的な運営のため参加費を頂戴致しました。参加費の集め方については、図2に示すとおり、どちらでも良いという回答者が最も多かったものの、今回の方式が良いという意見と、参加費三〇〇〇円（資料代込み）とした方が良いという意見と、双方の意見が得られました。

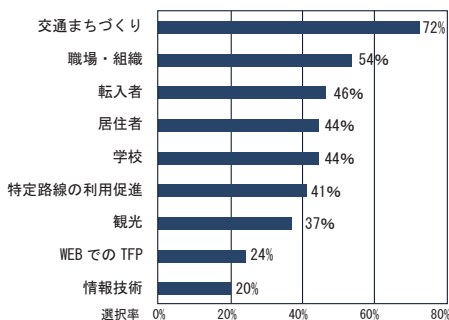


図1 興味のあるMMのテーマ (複数回答)

また、次回より設定する可能性を検討している「発表投稿費」については、無料でないで発表しづらい、次いで三〇〇〇円という回答が多くなりましたが、残りの過半数の方々から少なくとも一〇〇〇円以上の投稿費なら構わないとお考えいただいていることも示されました。(図3) さて、第五回JCOMMは、広島県福山市での開催を予定しております。こうした参加者の皆さまからの貴重なご意見を参考に、よりよい運営に努めてまいりたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

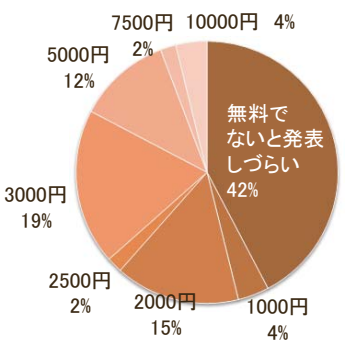


図3 適切だと思う発表投稿費 (n=52)

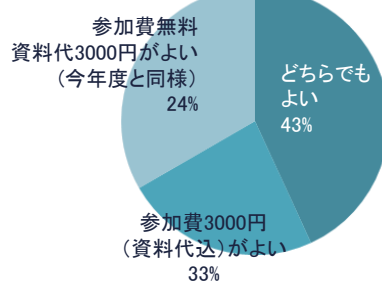


図2 資料代について (n=54)

JCOMM法人 会員募集始まる

かねてより実行委員会で審議を重ねて参りました「一般社団法人日本モビリティ・マネジメント会議（JCOMM法人）」が、本年六月に発足いたしました。

この法人は、本来あるべき適切な形のモビリティ・マネジメントが日本国内において効果的に広範に推進されていくことを支援することを目的として、JCOMMの持続的な開催・運営を主たる事業として展開していくための法人です。

第四回JCOMM会場にて、JCOMM法人の個人会員の募集が始まり、趣旨にご賛同いただき多くの方にご入会いただきました。今後の募集につきましては、近期中にHPに掲載いたします。

なお実行委員会は、JCOMM賞の審査やプログラムの検討などを通じてJCOMM法人を支援してまいります。

今後とも、JCOMMならびに法人にご理解とご協力を賜りますよう、お願いいたします。

JCOMM 法人 会員数

■個人会員	68
正会員	53
学生会員	15
■法人会員	18団体
(2009年9月15日現在)	

十年ほど前に訪れたイタリアのトリノ市で、バスとトラムの路線図を入手しようと、公共交通の拠点である国鉄中央駅に向かいました。駅構内の観光案内所では、トリノ市交通局のオフィスに行くようにと言われ、駅構内をうろちりました。みつけた案内所ではしばらく並び、自分の番が来てみると、そこは国鉄の案内所で、市内交通の路線図は置いていません。広い駅構内の奥まったところに、やっと市交通局のオフィスを見つけたのですが、「路線図は無い」とそつけない対応。1時間近く探しましたが、結局入手できませんでした。



写真1 パース市の公共交通案内所に設置された路線別時刻表

け、すなわち、どのくらい公共交通を大切にしているかを示していると言って過言ではないのかもしれない。

一方で、複数の交通事業者の情報を一体的に提供することが難しいのも事実です。例えば東京の主要駅でも、電車の乗り換えに困っている外国人をよく見かけます。同じ鉄道なのに事業者が複数、という状況を彼らは奇異に感じるようです。

JR、民鉄、バス、路面電車など複数モード、複数事業者の情報を総合的に提供できる案内所が理想です。ドイツ、オーストリアなどで設置され、名古屋などでも導入事例のあるモビリティ・センターがその解の一つになるでしょう。

さて、トリノでの後日談です。次の日、トリノ在住の知人に「バス・トラ

まちと交通 vol.9 バスマップを訪ねて三千里

ムマップがどうしても入手できなかった。路線図はどうしているの？」と聞いたところ、「一年一回、市交通局から全世帯に配付されているので大丈夫。」とのこと。なるほど、市交通局は住民用にはきちんと路線図を作っているのだと得心しました。しかし、住民だけでなく観光客などの来訪者にも路線図は必要ではないか？ など、と考えさせられました。

そして二〇〇七年、トリノ冬季オリンピック直後に再度来訪する機会があり、懲りずにバス・トラムマップを探しました。すると、中央駅の観光案内所は言うに及ばず、町中の大きな広場にいくつか設置された案内所で、容易に入手できるようになっていたのです。かつて、トリノ市交通局は「バスやトラムは住民のためのもの」と内向きに認識していたのかもしれない。それが、オリンピックを契機に「来訪者にも使ってもらおうもの」と外にも目を向け始めたようです。世界規模のイベントと言ふことで、莫大な予算が付いたこともあると思いますが、これを機会に、ぜひ来訪者にも継続的な公共交通情報提供を行ってほしいものです。

バスやトラムの路線図、時刻表などの情報は、その公共交通の使用説明

書・取扱説明書です。説明書を作らずに、あるいは適切に配付せずには傲慢とすら言えるのではないのでしょうか。住民にも、来訪者にも、ていねいで適切な情報を提供することが、公共交通利用促進の基底であると思います。



▲ 写真2・写真3 オリンピック後にできたトリノ中心部の観光案内所